

新型コロナウイルス感染症の状況と今後の対策

当院において新型コロナウイルス感染症の院内感染によりご逝去されました故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。また罹患された患者様やご家族に対してお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、医療提供体制を縮小せざるを得ない状況となり、患者様・ご家族、地域の皆様、地域医療機関・介護事業所その他多くの皆様に対して多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

4月8日に新型コロナウイルス感染症が院内で確認されてから狭山保健所や感染症の専門家の指導を受けながら感染対策本部を設置し、適切な感染予防対策を行い、患者・職員の健康管理を徹底し、感染者の早期発見、隔離に取り組んでまいりました。

最後に感染が確認された5月27日から2週間が経過し、新たな感染が確認されていないことから院内感染は収束したものと考えております。

今後は、狭山保健所の指導を受けて医療提供体制の再開に向けて進めてまいります。

この度の感染症発生の状況と今後の対策についてまとめましたのでご報告申し上げます。

1) 当院で新型コロナウイルス感染症が発生した状況

当院における新型コロナウイルス感染症の発生は、4月5日狭山保健所より「他院より転院してきた患者が濃厚接触者であるかもしれない」という電話連絡を受け、翌日PCR検査を実施した結果、陽性と判明しました。そのため、陽性判明から4月13日までに病棟入院中の患者様30名、職員55名のPCR検査を実施しました。その結果入院患者様7名、職員2名が新たに陽性と判明しました。感染の拡がりが見えなくなり、陽性患者様の隔離、職員の自宅待機、新たな病棟職員の配置など、連日その対応に追われることになりました。

ようやく地域包括ケア病棟の感染が落ち着き始めた5月12日に、回復期リハビリテーション病棟から陽性患者様が2名発生しました。陽性判明から5月15日までに、当該病棟においても入院患者様50名、職員94名に対しPCR検査を実施しました。その結果入院患者様3名、職員2名の陽性者が判明しました。

2) 当院での新型コロナウイルス感染症拡大への今後の対策

当院は、病床 332 床、地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、医療療養病棟を有し、70 代～90 代のご高齢者の入院を対象としており、そのため、感染対策には力を入れ感染制御チームも活動していました。

それにも関わらず、病棟を越えての感染拡大に関しては、どこに要因があったのかを分析し対処する必要があると考え、厚生労働省クラスター班の助言、狭山保健所の分析指導を受け、以下の対策を実施いたします。

①新型コロナウイルス感染症の早期診断

医師が必要と判断したときに、速やかに PCR 検査もしくは、院内で実施可能な代替え検査を実施する。他の臨床所見や、画像診断を併用し慎重に対処する。

②標準予防策の周知徹底

当院では、これまでも職員のマスク着用、手指消毒を励行してきたが、現在は、職員全員の常時マスクの着用、患者様に接する前後の頻繁な手指消毒を徹底している。また、吸引等によりエアロゾルが発生する際には、フェイスシールド、防護服の着用など適切な予防策を取る。さらには、感染制御チーム (ICT) を中心に、職員一人一人が正しく標準予防策が行えるよう教育、指導を続けていく。

③職員間の感染予防

病棟休憩室、職員ロッカー室、職員食堂など職員同士が密となる空間の使い方を改め、職員が病棟間を交差して患者様に関わることのないよう業務のあり方を考える。

④外来に関して

外来においては、有熱者の受診時間を決め外来を別の場所に設け対応する。また、病院玄関において外来受診者を含む来院者全員に対しては検温、手指消毒の励行を徹底する。

⑤入院患者に関して

当院において今後入院をご希望される方は、入院より当面 2 週間は個室にて経過観察する。

また、食堂での食事や入浴、リハビリテーション等、患者様が密にならないような医療、ケアを提供できるよう工夫する。

⑥患者様への看護・介護・リハビリテーションについて

当院の入院患者様は、高齢であり、日常生活に介助を要する方や認知機能が低下した方が多いのが現状。その中であっても、適切な予防策をとりなが

ら、これまでのような患者様に寄り添った看護、介護、リハビリテーションを提供する。

⑦感染制御チーム（ICT）の再構築

今回、2つの病棟にわたりこのような感染を起こしたことを鑑み、ICTの組織を再構築する。そのうえで、医師・看護師のみならずコメディカルも含めた病院職員、委託業者を含めた病院全体にかかわる職員一人一人が、感染に対する正しい知識、技術をもって業務に携われるような仕組みづくりをする。

4) おわりに

当院においては、新型コロナウイルス感染症患者様の発生以来、懸命に対応してまいりましたが、二つの病棟合わせて5名の入院患者様がお亡くなりになりました。様々な基礎疾患をお持ちで、ご高齢の方の入院が多い当院においては、このような感染症のアウトブレイクを二度と起こしてはいけなさと肝に銘じこれからの医療に取り組んで参る所存です。

また、所沢ロイヤル病院のこの地域での役割は、ポストアキュート、サブアキュートの患者様をもう一度在宅へ戻す懸け橋となること、そして最後まで安心して住み慣れた地域で過ごせるよう支援することです。当院の理念である「安心して良質な医療」を提供できる病院として再生し、地域に貢献できる病院を目指します。今後とも、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

令和2年6月12日

院長 金子正二